



大樹生命として更なる 「成長」ステージへ!

代表取締役社長

吉村俊哉

平素より、私ども大樹生命をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

このたび、2018年度の業績をはじめとする当社の現状について取り纏めたディスクロージャー誌「大樹生命の現状2019」を発行いたしました。本誌を通じて、当社へのご理解を一層深めていただければ幸いです。

三井生命から大樹生命へ

<更なる成長を目指して>

当社は、日本生命との経営統合から3年以上が経過し、信用力が向上するとともに、商品相互供給や銀行窓販・代理店チャンネルにおける販路の拡大などのシナジー効果により、収益力・成長力の強化が図られるなど、順調に統合効果を実現してまいりました。

このような状況を踏まえ、当社は2018年4月より、「ALL for ALL. ひとつひとつの、夢によりそう。」をスローガンとして、「再生」から「成長」ステージへ

の移行を目指す「中期経営計画2020(2018年度～2020年度)」をスタートさせました。

そして2019年4月1日、将来にわたる成長ストーリーを描くこのタイミングで、「三井生命」から「大樹生命」に社名を変更し、新社名・新ブランドで更なる成長を目指すこととしました。

<大樹生命に込めた想い>

大樹生命という社名には、“大樹”のように「しっかりと大地に根を張り、晴れの日も雨の日もしっかりとお客さまを守り、多くの人が集まってくる保険会社を目指そう」という想いを込めています。

また、「大樹」シリーズは、長年にわたる当社の主力商品ブランドであり、多くのお客さまに親しまれてきた名称でもあることから、これまで当社を信頼しご契約いただいたたくさんのお客さまとのつながりを、今後も大切にしていきたいという想いも込めています。

『中期経営計画2020』

<当社を取り巻く環境>

2018年度の生命保険業界におきましては、国内生命保険市場は緩やかに拡大しているものの、人口減少や少子高齢化の影響、情報技術の進化などによりお客さまのニーズは多様化し、販売経路やアフターサービスの方法も大きく変化しており、各社が新商品の開発やお客さま向けサービスの充実に取り組む動きが見られました。

また、11年ぶりに行われた2018年4月の「標準生命表」の改定を機に、各社が保険料率の見直しを行うなどの対応が見られました。



＜中期経営計画への取組み＞

このような環境のもと、当社は2018年度からの3カ年を計画期間とする「中期経営計画2020」を策定して取り組んでまいりました。

「中期経営計画2020」では、営業職員チャネルをコアに位置付けた「販売分野の成長」と、銀行窓販・代理店および日本生命への商品供給を通じた「元受分野の成長」の両輪に取り組む、加えて「元受機能の強化と効率化」や「ホールセール領域における強みづくり」に取り組むことで会社成長を加速させるとともに、これらの戦略を支える取組みとして、「お客さま本位の業務運営とコンプライアンスの徹底」、および「人材育成と活気のある職場環境づくり」を重要課題として位置付けています。

そして「中期経営計画2020」への取組みを進めた結果、2018年度決算におきましては、料率改定などの影響により基礎利益は減少したものの、日本生命への商品供給も含めた一時払外貨建養老保険「ドリームロード」の販売が好調であったことなどから、保険料等収入や新契約年換算保険料は前年度から増加、さらに内部留保の積み増しなどによりソルベンシー・マージン比率や実質純資産額も前年度から増加となりました。

また、健全性の回復などを背景に、個人保険・個人年金保険の契約者配当および、株主配当について、11年ぶりとなる復配を実施することといたしました。

＜「大樹生命」としての企業価値向上に向けて＞

2019年度は、「中期経営計画2020」の2年目として、また「大樹生命」の初年度として新ブランドの定着を図っていく重要な年度と位置付けています。そのため新社名浸透活動をはじめとした「大樹生命」ブランドとしての企業価値向上に繋がる取組みを実施するとともに、「中期経営計画2020」

に、全社一丸となって取り組んでまいります。

いつの時代も、お客さまのためにあれ

2019年は、「平成」から「令和」に元号が変わり、新たな時代の幕開けとなりました。

当社も大樹生命に社名が変わりましたが、初代社長の団琢磨が残したことばである「いつの時代も、お客さまのためにあれ」という価値観は、創業以来90年以上たった今でも変わることなく、全従業員に受け継がれています。

これからも、全従業員がこのことばを胸に刻み、お客さまによりそう「BESTパートナー」であり続けるため、誠心誠意努めてまいります。

引き続き、皆さまからの一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2019年7月

